



不登校児童生徒の増加が 予想される時期における重点的な対応

■ 不登校児童生徒の増加が予想される時期

○ 【資料Ⅰ・Ⅱ】は、平成24年度県内公立小・中学校における不登校児童生徒数等の月毎の推移を示している。進級して早い時期に、不登校になる児童生徒が多いことが分かる。また、夏季休業明けの9・10月に増加していることも特徴である。したがって、3～4月の学年接続の時期及び1年のスタートである4月の取組や2学期当初に学校への不適應傾向を示す児童生徒への対応について、万全を期す必要がある。

■ 年間を見通したポイントとなる時期

○ 不登校児童生徒の増加が予想される時期及び対応は、次のとおりになる。

① 3～4月の学年接続の時期及び1年のスタートである4月

- 小・中学校の連携強化、綿密な情報交換
- 児童生徒のきめ細かな実態把握と人間関係を配慮した学級編制
- 学習・生活習慣づくり、望ましい人間関係づくり
- 校内援助体制の構築（コーディネーターの位置付け、役割分担の明確化など）
- 分かる授業・学ぶ喜びを味わえる授業の実践

② 学校生活への慣れ及び不適應から問題が発生しやすい5～6月

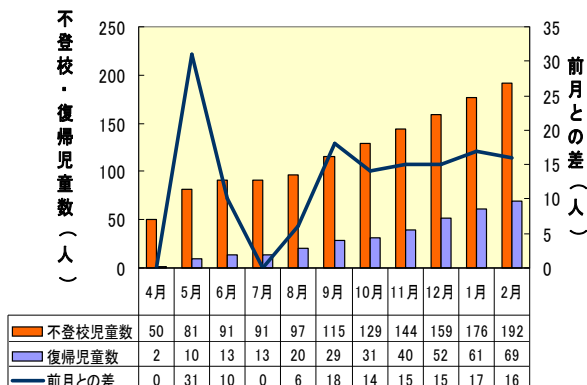
- ゴールデンウィーク後の対応
- 休みがちな児童生徒への援助と家庭との連携強化
- 悩み・友人関係等についての実態調査の実施
- 的確なアセスメントとチームによる対応、SC、SSW等との連携
- 分かる授業・学ぶ喜びを味わえる授業の実践、個に応じた学習支援
- 不登校児童生徒への重点的な働きかけ（家庭訪問、登校体験、学習指導等）

③ 夏季休業中及び夏季休業後（不登校児童生徒が再び増える時期）

- 休業中の児童生徒の動向把握、部活動が終了した生徒への援助の強化
- 学習面・生活面の見直しと改善
- 友人関係等の再調査の実施と集団活動の積極的な推進
- 不登校児童生徒へのチーム対応による戦略の見直し、段階的指導・援助
- 分かる授業・学ぶ喜びを味わえる授業の実践、個に応じた学習支援

【資料Ⅰ】

平成24年度小学校不登校児童数月別状況



【資料Ⅱ】

平成24年度中学校不登校生徒数月別状況

